

大谷駿河台

地域と連携した高齢独居世帯への 対応について

この資料は、受講生が地域デザインカレッジのプログラムの中で考えた企画を発表用にまとめたものです。自治会や町内会が組織として作成したものではありませんのでご了承ください。

大谷駿河台自治会 中村彰男

はじめに

高齢独居世帯が増加し、自治会活動に参加できない方も多くなっている。

街区長（役員）を輪番制で行っているが、実際はできない家も増えている。

※できないことを理由に自治会を辞める人はいない。



地区の現状

・ 空き家率 **14%** (35戸/250戸)

※空き家所有者は賛助会員として自治会年会費を半額に設定
・ ・ 9割方払ってけている

※2019年にスマートインターチェンジができてから、
若い世代も住み始めてきている

・ 高齢独居世帯 約**40**世帯 (最高齢**97**歳)

・ 孤独死件数 **2**件 (直近2年)

地区の現状

車の運転のできない高齢者が困っている。

※地区内の登坂の住宅地、最奥部の世帯は特に厳しい。



放置すると独居高齢者が施設へ移住する
ケースが増えると考えられる。

調べたこと

既存の高齢者支援について

	既存の対策	主体	備考
移動支援	東静岡駅まで平日3本バス運行	日本平自動車 (地元のバス会社)	2016年、路線バス2系統 開通
高齢者支援 ・ 居場所づくり	なんでも相談	地域包括支援センター	
	S型デイサービス※	地区社協	
	ほほ笑みのつどい	住民有志	2002年、老人会「寿会」を改め発足
	健康マーじゃん	住民有志	週1回程度
	移動販売車		毎週木曜日

※在宅の高齢者対象に集会所等地域の身近な場所で地域住民のボランティアにより行われる、介護予防を目的としたサロン。「S」は「しずおか」、「スモール（小地域福祉活動）」の意味。

取り組んだこと

自治会活動はできなくても、町内の方々と顔を合わせ、会話する場面を創り出していきたい。



しかし…

コロナの心配もあり、室内の企画は難しい…



そこで…


屋外でできる**ラジオ体操の会**を、
自治会として支援することにした

今後の取り組み

地域包括支援センターにヒアリングを実施する

高齢独居世帯について...

- ・ 属性確認（男女比率など）
- ・ どのような支援がされているか
- ・ S型やほほえみに参加していない方を把握しているか。
- ・ ゴミ出し等の手伝い状況について
- ・ セコムやALSOK等の「高齢者見守りサービス」を入れている人はどれくらいいるのか？



今後の自治会活動に反映させていく

今後の展開

地区社協、包括支援センター、民生委員との連携も図っていく。



- ・ 18街区を街区単位で動ける方が助けを必要としている内容を聞き取る（ごみ出し、外構の清掃等）
- ・ コロナの流行が落ち着いたら、講座・セミナーを企画して住民の交流を図る（例：防災講座）



近隣住民による行動の第一歩になればと考えています。